

〔古事記上〕天照大御神見畏閉天石屋戸而刺許母理此三字以音訓坐也。爾高天原皆暗、葦原中國悉闇。略中  
是以八百萬神於天安之河原神集集而訓云都度集高御產巢日神之子思金神令思訓加尼而集常世長。  
鳴鳥令鳴。

〔古事記傳八〕常世長鳴鳥とは鶏をいふ、常世は常夜にて、常世とは本より別なり、されど言の同  
きまゝに通はして、字には拘ず書るは古の常なり、には今かく常世往時に集て鳴せし鳥なる  
をもて、後に負し稱なるを、其始へ廻して、如此云るなり。○略中長鳴とは、凡て鶏は他鳥よりも鳴  
聲の絶て長き物なる故にいふなり、から書にも長鳴鶏と云ふえたれど、そはなれば、今と同じからず、書紀にすなは  
ち使互長鳴とあり。

〔古事記上〕八千矛神將婚高志國之沼河比賣幸行之時到其沼河比賣之家歌曰○略中遠登賣能那須  
夜伊多斗遠汎曾夫良比和何多々勢禮婆○略中爾波都登理迦祁波那久○略中爾波都登理迦祁波那久○略中宇禮多久母那久那留登理  
加許能登理母宇知夜米許世泥○略中下

〔古事記傳十二〕爾波都登理迦祁波那久○略中註庭鳥雞者鳴なり、此鳥の本名は迦祁なるを人家  
の庭に住む故に、庭つ鳥と枕詞に云ること、野鳥と同じ然るを後には、庭鳥とのみ呼て迦祁て  
ふ名は失ぬ○略中字音と思ふは誤なり。

〔冠辭考〕いへつとりかけ又にはつとり○略中

神樂歌に、庭とりはかけろと鳴ぬとうたふに依に、彼が鳴こゑもてかけとは呼也、かりくと  
鳴まゝにかり、からくと鳴故にからすてふ如き類ひ、他しものにも多し、此かけを家鶏の字  
しり、こいのいと上つ代に、漢の字音もていふこと無をだに思はね人のわざ也、萬葉に可雞と書  
しきは只假字也、それはやなぎの事を楊奈伎、うめを鳥梅と様に書る如く、幸により來たる字を書  
のみ也、  
借たる

〔神樂歌〕酒殿歌